



Nissan Chemical
CORPORATION
日産化学株式会社

中期経営計画

Vista2021 StageⅡ (2019~2021)

代表取締役 取締役社長 木下 小次郎

2019年5月15日

◆ Vista2021 Stage I の総括

◆ Vista2021 Stage II の概要

- Stage II の位置づけ
- 数値目標
- 基本戦略

Stage I (2016~2018) 損益

- ◆ 営業利益・経常利益・当期純利益は1年前倒しで達成
- ◆ 営業利益・経常利益は5年連続で最高益更新

単位:億円

	2015 実績	Stage I			Stage I		2018 実績-中計 ① - ②
		2016 実績	2017 実績	2018 実績 ①	2016 中計	2018 中計 ②	
売上高	1,769	1,803	1,934	2,049	1,875	2,170	-121
営業利益	286	314	350	371	297	350	+21
経常利益	295	317	362	391	304	356	+35
純利益 ※	224	240	271	294	230	271	+23

※純利益は、親会社株主に帰属する純利益を指す

EPS(円/株)	143.37	156.97	180.30	197.67	150.36	-	-
ROE	14.6%	15.1%	16.1%	16.6%	14.3%	14%以上	-
為替(円/ドル)	120	108	111	111	115	115	-4
ナサ(円/KL)	42,800	35,100	42,100	49,700	35,400	51,100	-1,400

Stage I セグメント別営業利益

単位: 億円

	2015 実績	2018 実績 ①	2018 中計 ②	差異 ①-②	増減要因
化学品	39	30	40	-10	◆硝酸、メミン輸出、硫酸製品上振れ、 その他下ぶれ ◆高純度液安、新製品未達
機能性材料	120	150	154	-4	◆光IPS材料拡大 ◆ラビングIPS、多層材料未達 ◆新製品の計画未達 ◆固定費上ぶれ
農業化学品	108	184	129	+55	◆フルララネル、ラウンドアップ、 アルテア等の伸長 ◆固定費下ぶれ
医薬品	20	10	20	-10	◆リバロ国内の減少 ◆一時金未達 ◆FT計画通り
その他*	-1	-3	7	-10	◆卸売他の未達
合計	286	371	350	+21	

Stage I 資源配分

	億円		億円		人数	
	研究開発費		設備投資		研究開発要員	
	16-18 累計実績	16-18 累計計画	16-18 累計実績 ※1	16-18 累計計画 ※2	2018 実績	2018 計画
化学品	16	17	66	91	10	10
機能性材料	243	243	189	208	200	194
農業化学品	126	152	83	98	95	95
医薬品	72	71	21	20	85	80
その他*	54	55	20	10	80	69
合計	511	538	379	427	470	448

※1 検収ベース

※2 稼働ベース

Stage I 成長の源泉（実績）（A）

セグメント		主要品目、取り組み内容	進捗	2018/2015 売上成長率
化学品	ファイン	テピック	△	↗
		テピック新グレード	△	—
	基礎	メラミン	○	↗
		アドブルー®*	△	↗
		高純度液安	△	↘
機能性材料	DP	光IPS向けディスプレイ材料	◎	↗↗↗↗↗
		ハイパーテック	△	—
		有機EL関連材料の開発と実需化	△	↘↘↘
	半導体	半導体反射防止コーティング剤	○	↗
		多層材料（OptiStack®*）	△	↗↗↗
		イメージセンサー向け材料	△	↗↗↗
	無機	オイル&ガス材料	△	↗↗↗↗↗
	共通	海外における生産拠点および顧客サービスの強化	○	—

0~24%	25~49%	50~74%	75~99%	100%以上	上向き矢印はプラス 下向き矢印はマイナス
↗	↗↗	↗↗↗	↗↗↗↗	↗↗↗↗↗	

◎計画より進捗 ○計画通り △遅れ・未達

*AdBlue®はトヨタ自動車工業会(VDA)の登録商標です。

* OptiStack®はBrewer Science, Inc. の登録商標です。

Stage I 成長の源泉（実績）（B）

セグメント	主要品目、取り組み内容	進捗	2018/2015 売上成長率
農業化学品	フルララネル拡販	◎	
	ラウンドアップAL、ML	○	
	アルテア拡販	◎	
	海外販売の拡大(フルララネル含む)	◎	
	海外現地法人設立	○	—
医薬品	ファインテック（医薬品受託事業）の拡大	○	
	新剤の導出	△	—
	パイプラインの充実	△	—

◎計画より進捗 ○計画通り △遅れ・未達



Stage I 経営指標

	2018 計画	2018 実績	
売上高営業利益率	15%以上	18.1%	達成
ROE	14%以上	16.6%	達成
売上高研究開発費率	8%以上	8.7%	達成
配当性向	40%	41.5%	達成
株主総還元性向	70%維持	72.0%	達成

Stage I 基本戦略に基づく施策の実行状況(A)

基本戦略 1.

現有製品の利益の最大化

- ◆ フルララネルの拡販とコストダウン
- ◆ 光 I P S 材料の新規顧客獲得などによる伸長
- ◆ 「ラウンドアップ A L」シリーズ拡充
- ◆ アルテア剤の拡販
- ◆ コストダウンの推進(原料コストダウン,自製化など)

Stage I 基本戦略に基づく施策の実行状況(B)

基本戦略 2.

マーケティング力の向上

- ◆ NCAサンタクララ事務所 最先端技術情報の収集、評価
- ◆ NCB(ブラジル)、NAI(インド) 農薬の普及・販売・開発支援
- ◆ NSU(中国蘇州) R & Dセンター設立 技術支援

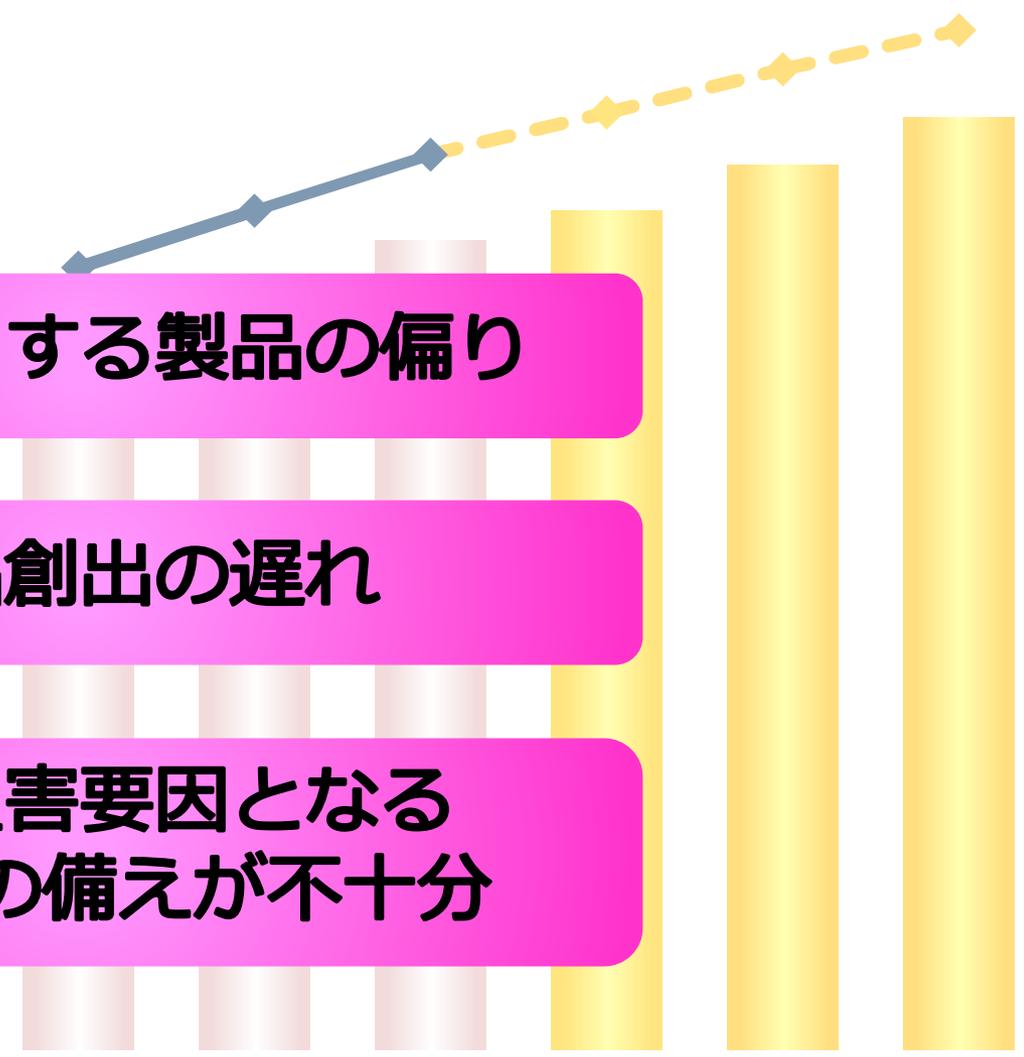
基本戦略 3.

研究開発力の強化

- ◆ 新規殺虫剤「グレーシア」の上市 (韓国18年,日本19年)
- ◆ 光IPS材料の顧客ニーズに応じた開発促進
- ◆ 三次元実装材料、EUV下層膜材料の本格上市
- ◆ 半導体評価機器導入による評価力の向上
- ◆ ペプチド、核酸液相合成技術確立に向けた取り組み

今後の成長に向けて

課題認識



収益を牽引する製品の偏り

新製品創出の遅れ

成長の阻害要因となる
リスクへの備えが不十分

Vista2021 Stage II の概要

Stage II の位置づけ 長期経営計画「Progress2030」

事業を取り巻く環境

地球環境保全

2030年の企業像

食糧問題

データ高速化

グローバルに変化する社会と向き合い、
社内外の知を融合することで、
人々の豊かな暮らしに役立つ
新たな価値を提供する企業グループ

エネルギー問題

人材多様化

培った信頼と磨き上げた技術により、
情熱をもって未来を切り拓く、
一流の挑戦者集団

長寿・高齢化

医療費高騰

先進医療

事業規模

売上高3000億円 営業利益500億円

中期経営計画「Vista2021 StageⅡ」(A)

2030年の企業像へ至る通過点として、2021年の
あるべき姿を明確に示し、成長の道標とする

2021年のあるべき姿

機能性材料および農業化学品事業が業績を牽引し、
次の成長エンジンが生まれている

挑戦を楽しむ組織が実現し、多様な人材が目標に向かって
能力を発揮している

事業活動を通じて、社会の持続的な発展に貢献している

中期経営計画「Vista2021 StageⅡ」(B)

基本戦略

成長の源泉となる製品の利益拡大

新製品創出力の強化

社会・市場の変化への対応力向上

Stage II (2019~2021) 数値目標

単位:億円

	2018 実績 ①	2019 予想 ②	2021 計画 ③	21年- 18年 ③-①	2021 Stage I ④	前中計比 ③-④
売上高	2,049	2,105	2,350	+301	2,500	-150
営業利益	371	387	430	+59	400	+30
経常利益	391	402	440	+49	408	+32
純利益 ※	294	302	330	+36	310	+20

※純利益は、親会社株主に帰属する純利益を指す

EPS(円/株)	197.67	205.83	230.00	+32.33	-	-
ROE	16.6%	16.3%	16%以上	-	14%以上	-
為替(円/ドル)	111	110	110	-1	115	-5
リサイクル(円/KL)	49,700	43,000	43,000	-6,700	51,100	-8,100

Stage II セグメント別売上高

単位: 億円

	2018 実績 ①	2019 予想 ②	2021 計画 ③	21年 - 18年 ③-①	2021 Stage I ④	前中計比 ③-④
化学品	357	390	431	+74	405	+26
機能性材料	630	643	751	+121	829	-78
農業化学品	627	642	701	+74	670	+31
医薬品	70	70	75	+5	83	-8
その他*	365	360	392	+27	513	-121
合計	2,049	2,105	2,350	+301	2,500	-150

Stage II セグメント別営業利益

単位: 億円

	2018 実績 ①	2019 予想 ②	2021 計画 ③	21年 - 18年 ③-①	2021 Stage I ④	前中計比 ③-④
化学品	30	40	51	+21	45	+6
機能性材料	150	150	173	+23	184	-11
農業化学品	184	190	211	+27	167	+44
医薬品	10	10	7	-3	24	-17
その他*	-3	-3	-12	-9	-20	+8
合計	371	387	430	+59	400	+30

Stage II 資源配分

億円

億円

億円

人数

	研究開発費		設備投資		減価償却費		研究要員	
	16-18 累計実績	19-21 累計計画	16-18 累計実績 ※1	19-21 累計計画 ※2	16-18 累計実績	19-21 累計計画	2018 実績	2021 計画
化学品	16	14	66	147	52	94	10	10
機能性材料	243	267	189	178	167	170	200	210
農業化学品	126	148	83	82	44	55	95	95
医薬品	72	71	21	17	21	18	85	90
その他*	54	80	20	23	19	31	80	75
合計	511	580	379	447	303	368	470	480

	18年実績	21年計画
売上高研究 開発費率	8.7%	9.0%

※1 検収ベース

※2 稼働ベース

Stage II キャッシュ・フロー

単位: 億円

	2016~2018年度 累計実績	2019~2021年度 累計計画(概数)
営業キャッシュ・フロー	1,021	1,150
投資キャッシュ・フロー	-392	-450
財務キャッシュ・フロー	-620	-750
うち株主還元	-556	-700
うち借入金返済	-64	-50

単位: 億円

	2018年度 実績	2021年度 計画(概数)
期末現預金残高	362	300

Stage II 經營指標

	2018 実績	2021 目標
売上高営業利益率	18.1%	18%以上
ROE	16.6%	16%以上
配当性向	41.5%	19年度 42.5% 20年度以降 45%維持
株主総還元性向	72.0%	19年度 72.5% 20年度以降 75%維持

中期経営計画「Vista2021 StageⅡ」

基本戦略 1.

成長の源泉となる製品の利益拡大

Stage II 化学品セグメント

<2021年度目標> 高稼働率を維持、環境変化に迅速に対応し利益最大化、

機会・リスク

- ◆世界的に旺盛なシアル酸需要
- ◆水の衛生への社会的要請の高まり
- ◆情報通信分野向け製品の需要拡大
- ◆設備老朽化に伴うプラントトラブル増加

主要施策

- ◆シアル酸(※)、レ°ック、ハイト、高純度硫酸の拡販
- ◆デジタル技術導入による保全技術の高度化

成長の源泉

- ◆シアル酸(※)
レ°ック
ハイト
高純度硫酸

※決算説明会資料 30ページ参照

<主要投資計画> シアル酸増強 20億円、TEPIC電材向け増強5億円、

単位:億円

	2018実績	2019予想	2021計画	18年比
売上高	357	390	431	+74
営業利益	30	40	51	+21
設備投資	20	32	54	+34
減価償却費	18	20	41	+23
R&D費用	6	5	5	-1

Stage II 化学品セグメント 売上高成長率

主要製品		2018/ 2017	2019/ 2018	2021/ 2018※
ファイン	テピック	-6%	+19%	+40%
	環境化学品	+7%	+6%	+35%
	合計	-2%	+14%	+35%
基礎	メラミン	+15%	+16%	+30%
	尿素・アトブル®	-1%	+4%	+15%
	高純度硫酸	-4%	+10%	+25%
	合計	+4%	+7%	+15%
セグメント	合計	+2%	+9%	+20%

※2021/2018は5%刻みで表示

Stage II 機能性材料セグメント

- <2021年度目標>
- ◆重要テーマの実需化により市場シェアを拡大
 - ◆将来の成長エンジンとなる複数の新製品を創出

機会・リスク

- ◆情報通信分野の発展による需要増
- ◆原油価格変動によるシールオイル需要変化
- ◆革新技術の出現
- ◆企業間競争の激化

主要施策

- ◆新製品の開発・上市
- ◆既存製品の改良・用途拡大
- ◆評価技術力の強化
- ◆設備増強・整備

成長の源泉

- ◆TV向け配向材
- ◆オイル&ガス材料

<主要投資計画> 半導体分析新棟20億円、D P 設備増強13億円、半導体評価機器10億円

単位：億円

	2018実績	2019予想	2021計画	18年比
売上高	630	643	751	+121
営業利益	150	150	173	+23
設備投資	33	43	32	-1
減価償却費	60	55	59	-1
R & D費用	82	86	93	+11

Stage II 機能性材料セグメント 売上高成長率

主要製品		2018/ 2017	2019/ 2018	2021/ 2018※
D P	T N	↓↓	↓↓↓	↓↓↓↓
	V A	↑	↑↑	↑↑↑↑
	I P S	↑	↓	↑
	サンエバー小計	+7%	-0%	+10%
	ハイパーテック	↓↓↓↓↓	↑↑↑↑↑	↑↑↑↑↑
	調光フィルム材料	↓↓↓↓↓	↑↑↑↑↑	↑↑↑↑↑
合計		+7%	+0%	+15%
半導体	A R C®	+6%	-0%	+15%
	その他半導体材料	+31%	+11%	+35%
	合計	+11%	+3%	+20%
無機	スノーテックス	+1%	+2%	+5%
	オルガノ・ モノマーゾル	-1%	+5%	+50%
	オイル&ガス材料	-3%	+95%	+285%
	合計	+3%	+5%	+25%
セグメント 合計		+7%	+2%	+20%

売上高成長率

+50%~	↑↑↑↑↑
+30~+49%	↑↑↑↑
+20~+29%	↑↑↑
+10~+19%	↑↑
+0~+9%	↑
-0~-9%	↓
-10~-19%	↓↓
-20~-29%	↓↓↓
-30~-49%	↓↓↓↓
-50%~	↓↓↓↓↓

ARC®はBrewer Science, Inc. の登録商標です。

※2021/2018は5%刻みで表示

Stage II 農業化学品セグメント

<2021年度目標>

◆グローバル市場向け拡販と農薬開発

◆海外需要を見越した生産体制の構築と製造コスト削減

機会・リスク

- ◆海外農薬市場の継続的拡大
- ◆国内人口減少による労働力不足
- ◆企業間競争の激化
- ◆原体、原薬の供給不足

主要施策

- ◆グレースの速やかな普及、拡販
- ◆大型農家・法人向け並びに一般消費者向け取組強化
- ◆NC-241(新規殺菌剤)、NC-653(新規除草剤)の着実な開発とパイプライン創出

成長の源泉

- ◆グレース
- ◆フルラネ
- ◆ラウンドアップ

<主要投資計画> 殺菌剤製造設備27億円、グレース製造設備27億円

単位:億円

	2018実績	2019予想	2021計画	18年比
売上高	627	642	701	+74
営業利益	184	190	211	+27
設備投資	33	7	65	+32
減価償却費	17	18	21	+4
R&D費用	45	47	52	+7

Stage II 農業化学品セグメント 売上高成長率(値引前)

主要製品	種類	2018/ 2017	2019/ 2018	2021/ 2018※
フルララネル	動物薬	↗↗↗	↘	↗↗
ラウンドアップ	除草	-6%	+8%	+15%
アルテア	除草	↗↗	↘	↗
タルガ	除草	↗↗	↘	↘
パーミット	除草	↗	↗↗	↗
グレーシア	殺虫	-	+600%以上	+700%以上
合計	—	+7%	+3%	+10%

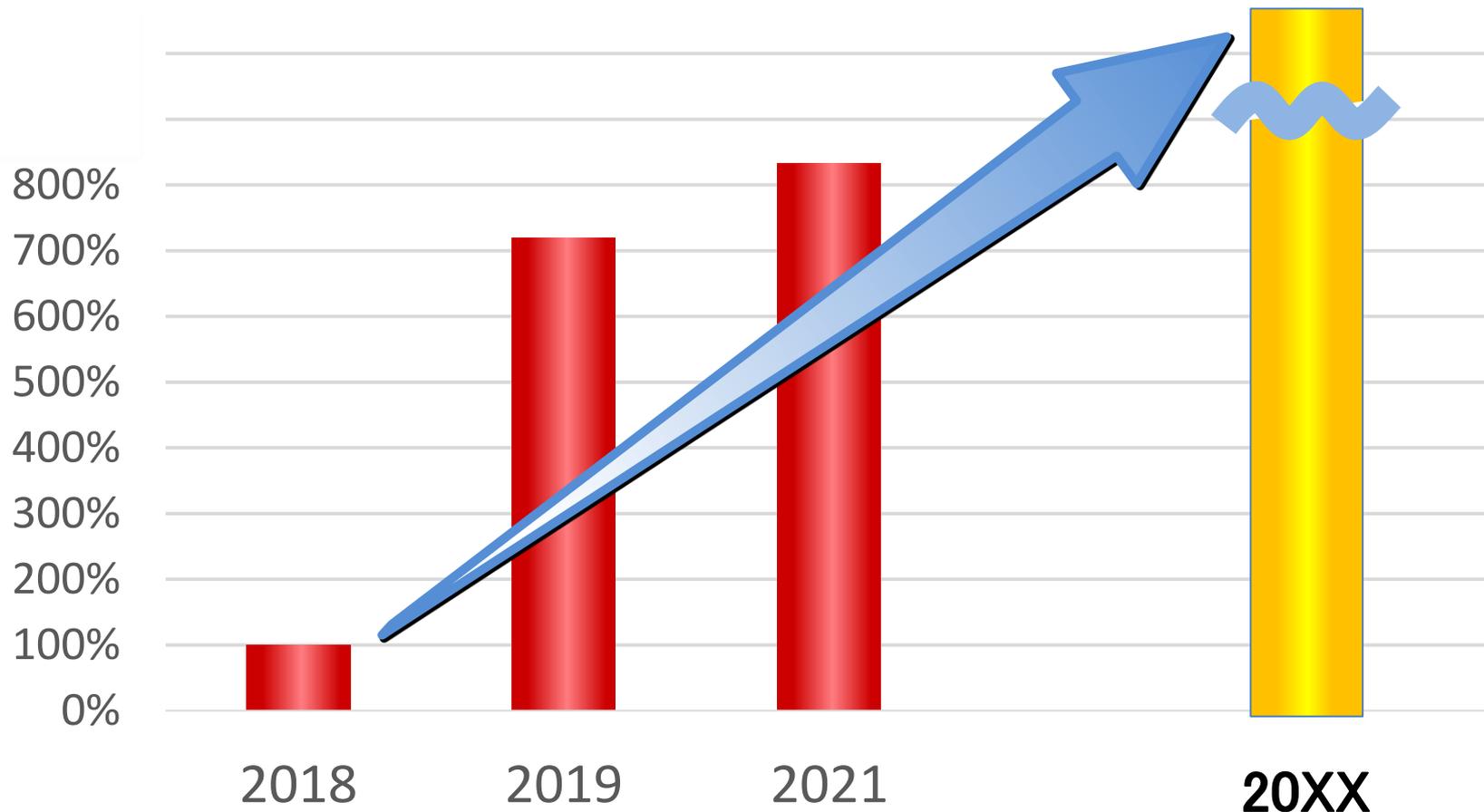
売上高成長率

+40~+59%	↑↑↑↑↑
+30~+39%	↑↑↑↑
+20~+29%	↑↑↑
+10~+19%	↑↑
+0~+9%	↑
-0~-9%	↓
-10~-19%	↓↓
-20~-29%	↓↓↓
-30~-39%	↓↓↓↓

※2021/2018は5%刻みで表示

Stage II 農業化学品セグメント グレーシア

2018年韓国上市、2019年5月日本上市、本格普及へ
販売登録国の拡大、設備増強により2021年以降も伸長を計画

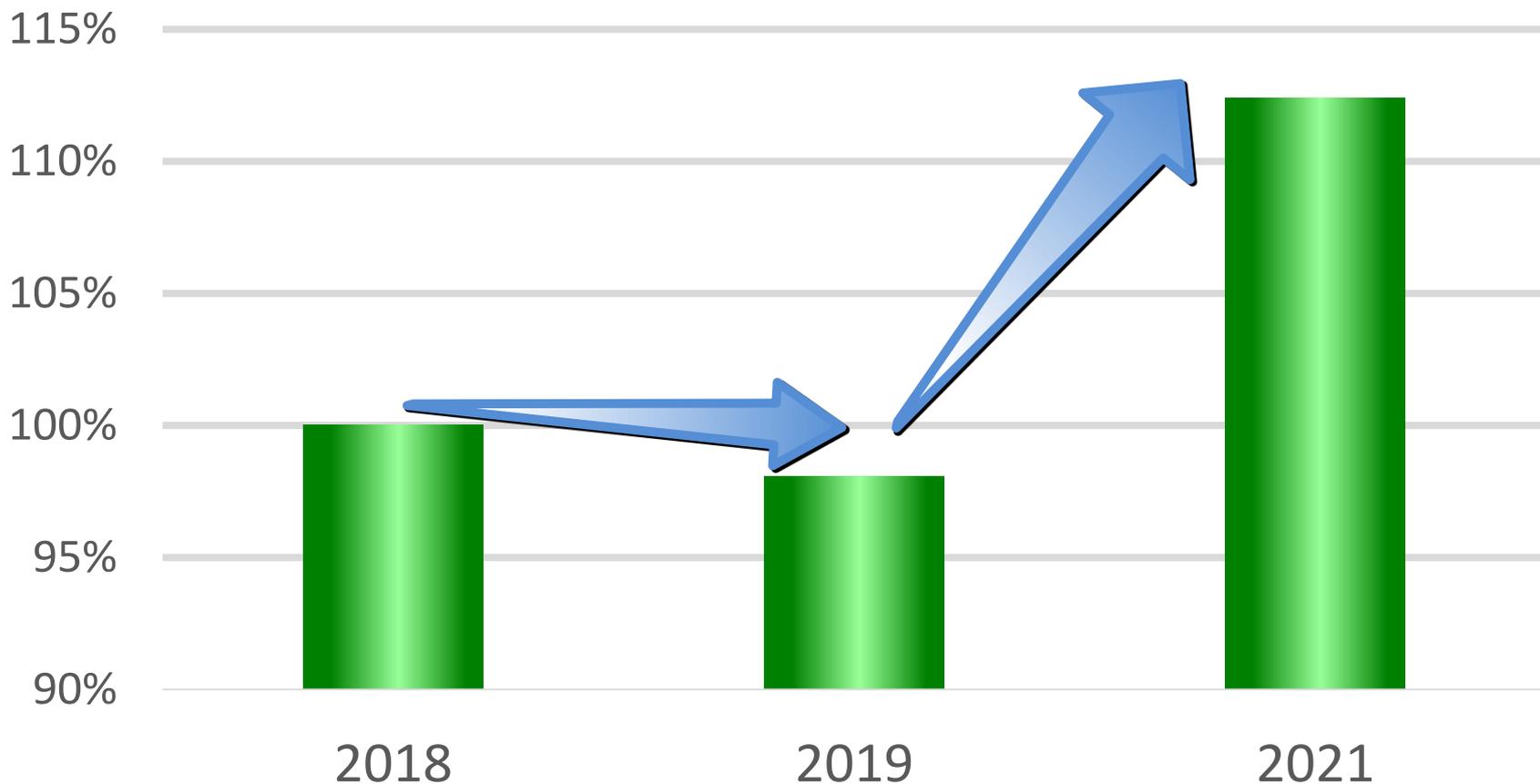


※ 2018年度を100とした場合

国内外で売上100億円を目指す

Stage II 農業化学品セグメント フルララネル

2019年度は末端在庫調整により減収、以降は回復し増収を見込む



※2018年度を100とした場合

Stage II 医薬品セグメント

<2021年度目標>

◆創薬：パイプラインの創出

◆受託事業：新たなジェネリック医薬品、中分子医薬品への参入

機会・リスク

- ◆中分子の創薬研究が活発化
- ◆ジェネリック医薬品の増勢
- ◆企業間競争の激化

主要施策

- ◆開発候補剤の創出とステージアップ
- ◆受託・製造事業の拡大と収益性向上

成長の源泉

- ◆エルテカシール、ジェネリック受託の拡大
- ◆ハプロト受託

単位：億円

	2018実績	2019予想	2021計画	18年比
売上高	70	70	75	+5
営業利益	10	10	7	-3
設備投資	5	5	6	+1
減価償却費	6	6	6	-0
R&D費用	25	25	23	-2

Stage II 医薬品セグメント 売上高成長率

主要製品		2018/ 2017	2019/ 2018	2021/ 2018※
医薬	リバロ	-11%	-5%	-50%
	国内	-53%	+59%	+30%
	海外	-6%	-9%	-55%
	合計	-12%	-5%	-45%
ファインテック(FT) 合計		+3%	+8%	+95%
セグメント 合計		-7%	-0%	+10%

※2021/2018は5%刻みで表示

Stage II 医薬品セグメント概況 パイプライン

◆開発品	作用機序	適応症候補	パートナー等
NIP-022	・トロンボポエチン (TPO) 受容体活性化	・血小板減少症	・ヤクルト本社とライセンス契約締結 (2015/10) ・健常成人に対する国内第 I 相試験を終了 (2017/7)
NTC-801	・アセチルコリン感受性カリウムチャネル電流 (IKACH) 阻害	・不整脈 (心房細動など)	・AMED*革新的医療シーズ実用化研究事業に採択 (2018/9) ・大阪大学と医師主導治験開始に向けて準備中 ・導出先検討中

*国立研究開発法人日本医療研究開発機構

◆開発候補品	適応症、疾患分野等	概要
NIP-231	・代謝性疾患	・GLP安全性試験完了、適応症検討中
NIP-301	・てんかん、本態性振戦	・非GLP安全性試験実施中
NIP-321	・炎症性疼痛	・非GLP安全性試験実施中

◆**自社創薬研究** 循環器疾患領域と神経疾患領域に集中

◆**戦略的共同研究**

- 低分子医薬品創薬について塩野義製薬他、数社と共同研究を実施中
- 核酸医薬品創薬についてルサバイotech他、数社と新たに共同研究を開始

基本戦略 2.

新製品創出力の強化

- ◆市場・顧客情報を踏まえた研究開発の推進
- ◆国内外研究インフラ拡充による解析、評価、開発機能向上
- ◆国家プロジェクト参画などによる技術の確立と材料の実用化
- ◆研究開発・製造部門が一体となった実需化の加速

中期経営計画「Vista2021 StageⅡ」(B)

基本戦略 2.

新製品創出力の強化

<2021年度目標>

- ◆市場ニーズに合致した独自材料の提供による、社会・顧客の課題解決への貢献
- ◆将来の新事業立ち上げにつながる製品の創出

機会・リスク

- ◆再生医療市場の拡大
- ◆美容・健康市場の伸長
- ◆低炭素社会実現に向けた技術開発加速
- ◆開発遅延、想定された時代到来の遅れ

主要施策

- ◆重点テーマへの資源重点配分による開発加速
- ◆顧客密着度向上とソリューション提案強化
- ◆国家プロジェクト参画による標準材料化の獲得

<主要投資計画>細胞培養培地材料製造設備 6 億円

主要新製品 2018年実績

(1)サンプル出荷に伴う試験費控除も含む

売上高規模(1)	3億円未満	3億円以上 6億円未満	6億円以上	合計	
化学品	<ul style="list-style-type: none"> テピック新製品(液状)(FC) ビーナスオイルクリーン(FC) 			0億円	
機能性材料	<ul style="list-style-type: none"> ハイパーテック(高屈折率)(DP) 有機EL用ホール注入材(DP) 位相差フィルム用配向材(DP) CMOSイメージセンサー材料(半導体) 新規高屈(IM用フィルム)(無機) 	<ul style="list-style-type: none"> 調光フィルム材料(DP) 撥液バンク材料(DP) EUV下層膜(半導体) モノマーゾル(3Dプリンティング)(無機) オルガノゾル(絶縁CTE)(無機) 	<ul style="list-style-type: none"> オイル&ガス材料(無機) 三次元実装材料(半導体) 	19億円	
農業化学品	<ul style="list-style-type: none"> ネクスター(導入剤) クラール(自社開発) 	<ul style="list-style-type: none"> トランスフォーム™/エクシード™/ピレスコ™(導入剤) 	<ul style="list-style-type: none"> グレーシア(自社開発) 	<ul style="list-style-type: none"> ラウンドアップALシリーズ 	20億円
医薬品・その他	<ul style="list-style-type: none"> 新規ジェネリック(FT) 細胞培養培地材料 	<ul style="list-style-type: none"> エルデカルシトール(FT) 	<ul style="list-style-type: none"> マキサカルシトール(FT) 	7億円	

主要新製品 2021年計画

売上高規模(1)	3億円未満	3億円以上6億円未満	(1)サンプル出荷に伴う試験費控除も含む 6億円以上	合計
化学品	ビーナスオイルクリーン (FC)	テピック新製品 (FC)		6億円
機能性材料	位相差フィルム用配向材 (DP) 新規高屈(IM用フィルム) (無機)	調光フィルム材料(DP) 撥液バンク材料(DP) EUV下層膜 (半導体) オルガノゾル(絶縁CTE) (無機)	TV向け配向材(DP) ハイパーテック (高屈折率)(DP) 三次元実装材(半導体) モノマーゾル (3Dプリンティング)(無機) オイル&ガス材料(無機) CMOSイメージセンサー材料 (半導体) 有機EL用ホール注入材(DP)	79億円
農業化学品	ネクスター (導入剤) クラール (自社開発)	アレイル (自社開発)	グレースシア(自社開発) ラウンドアップALシリーズ トランスフォーム™/エクシード™/ ピレスコ™ (導入剤)	78億円
医薬品	新規ジェネリック (FT) 新規ジェネリック (FT)		エルデカルシトール (FT) ペプチド受託(FT)	27億円
新分野	機能性化粧品材料 細胞培養培地材料	生体適合材料 二次電池材料		6億円

中期経営計画「Vista2021 StageⅡ」

基本戦略3.

社会・市場の変化への対応力向上

Stage II 企業存続にかかわる最重要課題

コーポレートガバナンス強化

- ◆ 2019年4月 指名・報酬諮問委員会の設置
- ◆ 2019年6月 社外取締役を1名増員し、3名体制を予定（1／3以上）
（株主総会決議後）
- ◆ 2019年6月 業績連動型株式制度導入予定（株主総会決議後）

コンプライアンス強化

- ◆ 自律的倫理・コンプライアンス体系の確立

リスクマネジメント強化

- ◆ 全社的リスクマネジメント（ERM）の基盤確立
- ◆ グループ重要リスクのPDCAサイクル確立

Stage II マテリアリティ（重要課題）への取り組み強化(A)

ESG、SDGsを踏まえて、社会課題の解決に貢献、
2030年の企業像を実現するために取り組むべき
マテリアリティ（重要課題）

①人々の豊かな暮らしに役立つ新たな価値の提供

健康問題、食糧問題、スマート社会などへの貢献

②自社事業基盤の強化

研究開発力の強化、製品の品質向上、働きやすい職場づくりなど

③レスポンシブル・ケア活動の継続的強化

気候変動の緩和、労働安全衛生の推進、生物多様性への取組など

Stage II マテリアリティ（重要課題）への取り組み強化(B)

	マテリアリティ要素	2021年度の目標
① 新たな価値の提供	健康問題への貢献	医薬開発候補剤のライセンスアウト 新規医療材料の上市
	環境配慮型製品・サービスの提供	新たな環境配慮型製品の上市
	生活の質の向上への貢献	飲料水用殺菌消毒剤による貢献 21年度2,500千人/年(18年度900千人/年)
	スマート社会への貢献	データ通信の大容量・高速化に対応する光配線材料の上市
	食糧問題への貢献	農業化学品事業部売上高18年度比10%増
② 自社事業基盤の強化	研究開発力の強化	21年度までの3年間における特許出願数1350件(現状維持)
	製品の品質向上	21年度までの3年間における製造委託先への監査実施率80%
	従業員の健康維持向上	ホワイト500の継続取得
	働きやすい職場づくり	年次有給休暇取得率80%以上
	人材の確保・育成	一人当たり研修時間 17年度比10%UP
	ダイバーシティの推進	総合職に占める女性社員比率10%
	公正な取引の推進	21年度までに、本体全箇所での法務相談会実施
	CSR調達の推進	CSRアンケート調査カバー率90%(金額ベース)
	気候変動への適応	経常利益50%を占める製品のBCP策定

Stage II マテリアリティ（重要課題）への取り組み強化(C)

	マテリアリティ要素	2021年度の目標
③RCC活動の継続的強化	気候変動の緩和	GHG排出量13年度比△20% エネルギー原単位13年度比20%改善
	労働安全衛生の推進	休業災害ゼロ
	生物多様性への取り組み	本社・工場・研究所が所在するすべての都道府県での取り組み18年度67%⇒21年度100%
	化学物質の管理	全製造量の90%を占める製品の化学物質安全性要約書作成
	産業廃棄物・汚染物質の排出削減	リサイクル率99.5%以上 排ガス(SOx+NOx)排出量13年度比△75%

Stage II以降に向けた取り組み

機能性材料

- ◆フレキシブル・5G向け材料の開発、実需化
- ◆次世代のディスプレイ・半導体材料創出

農業化学品

- ◆新規殺菌剤および水稻除草剤、動物薬の新剤開発

医薬品

- ◆核酸創薬技術の磨き上げ、医薬開発パイプラインの充実
- ◆高付加価値製品（ペプチド製品）の受託拡大

その他

- ◆細胞培養材料のグローバルスタンダード化
- ◆機能性化粧品材料、二次電池材料の採用拡大
- ◆環境発電材料の創出、全固体電池材料の技術確立と実用化

永続的成長への挑戦 そして未来を切り拓く企業へ

免責事項

本資料に記載されている将来の当社事業に関する見通しは、資料作成時点で入手可能な情報に基づいて当社が判断したものであり、将来の当社業績を保証するものではありません。様々な不確実要素により、実際の業績は予測と大きく異なる結果になる可能性があります。

また、本資料は投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断で行われるようお願いいたします。